# 2 食を巡る現状と課題

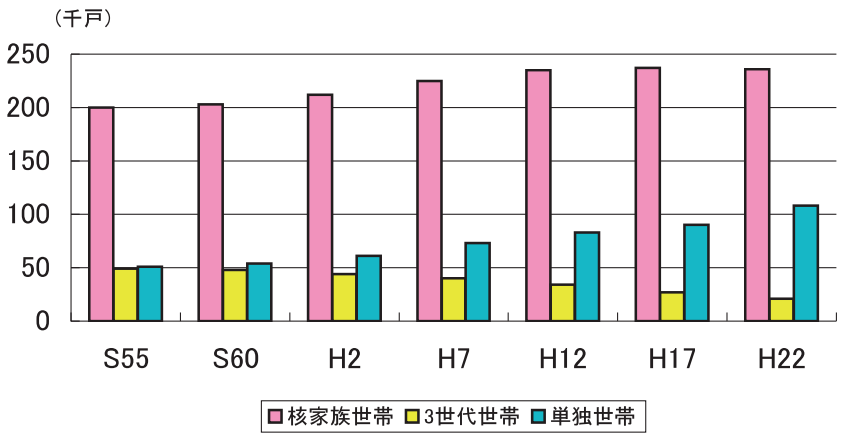
## （1）食を取り巻く社会情勢

### 家族形態の変化

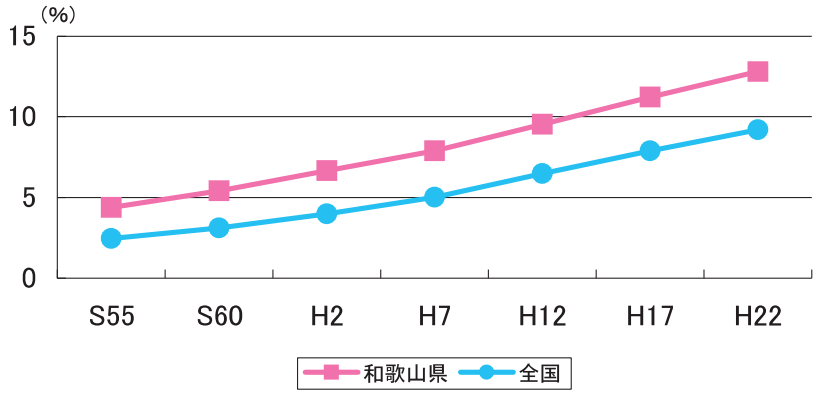
●和歌山県の人口は、昭和50年代後半をピークに減少していますが、世帯数は増加傾向で、核家族世帯と単身世帯（1人だけの世帯）の増加に伴い、3世代世帯（夫婦、子どもと親からなる世帯）が減少しています。また、ひとり暮らしの高齢者が増え、本県の高齢者単身世帯割合は、全国平均よりも高くなっています（全国第3位）。

●このような世帯状況の中で、家族で楽しくコミュニケーションをとりながら食事をする機会が減少し、家庭での食に関する経験や食文化の継承などが困難になっていることがうかがえます。

**世帯の家族類型の推移（和歌山県）**




**高齢者単身世帯割合の推移（和歌山県・全国）**




※高齢者単身世帯割合は、全世帯数に占める65歳以上単身世帯数。

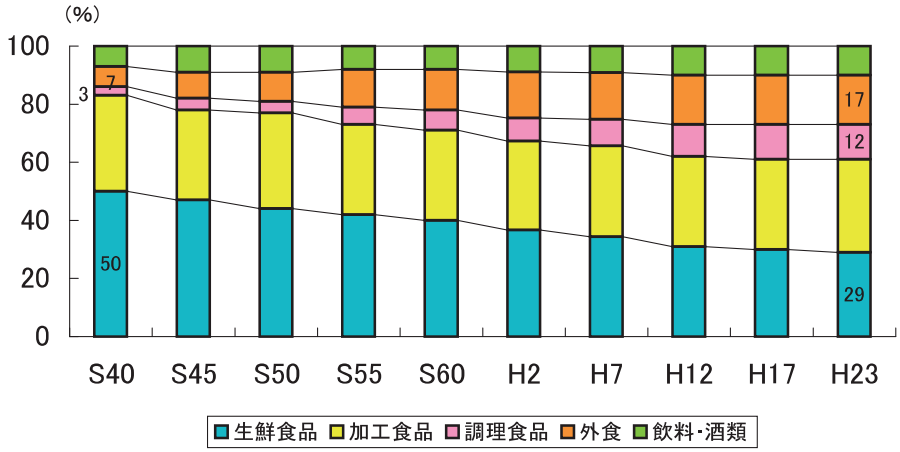
資料：総務省「国勢調査」

## 食の外部化・簡素化の進展

●家庭の食事における支出は、生鮮食品の割合が減少し、外食や調理済み食品の割合が増加しています。

●手づくり志向がある一方、ライフスタイルの変化により、若い世代を中心に簡便化を求める傾向も強く、手づくりの料理や伝統的な郷土料理が食卓に上がる機会が減少していると考えられます。

**消費者世帯の種類別食料消費支出割合の推移（全国）**



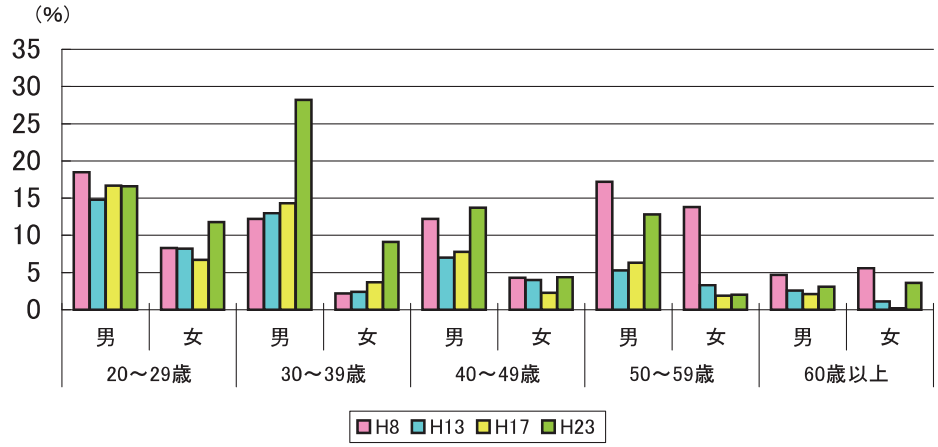

資料：農林水産省「平成23年度食料･農業･農村白書」

## （２）食生活と健康、生活習慣病

### 成人の朝食欠食状況

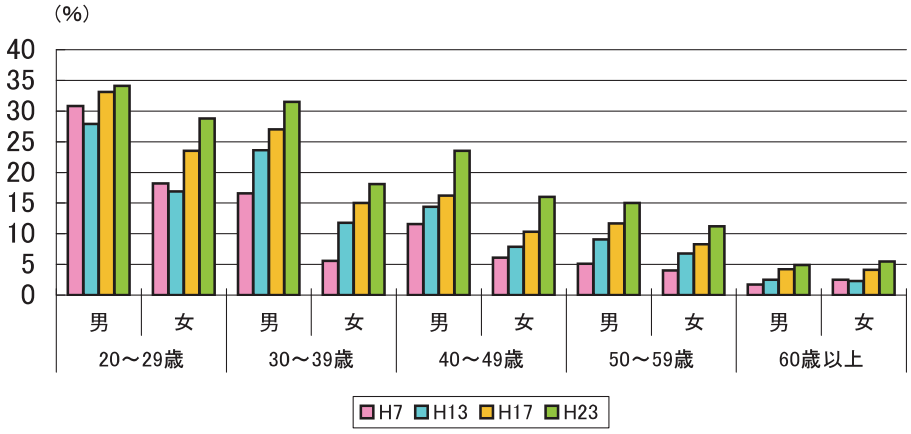
●朝食欠食率は、全国に比べて低い状況にありますが、男女とも２０歳代・３０歳代で比較的高くなっています。

**朝食欠食率の推移（和歌山県）**




資料：和歌山県「県民健康･栄養調査」

**朝食欠食率の推移（全国）**

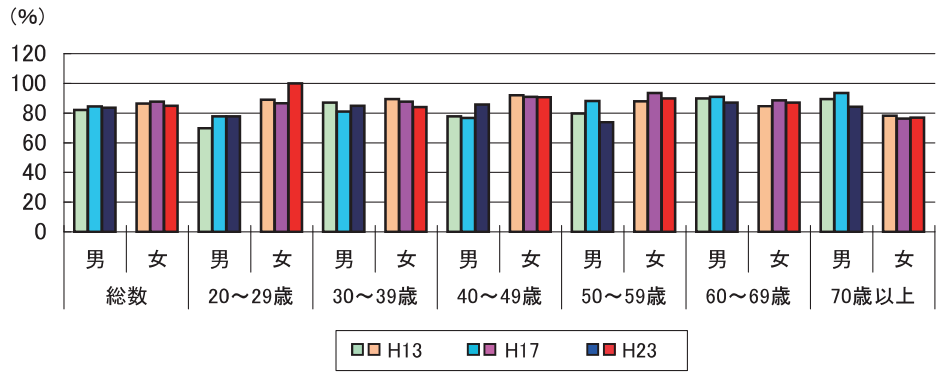



資料：厚生労働省「国民健康･栄養調査」

## 食事環境（共食）

●家族や友人と一緒にたのしくゆっくり食事をしている県民の割合は、全体としてほぼ横ばいの状況です。

**共食率の推移（和歌山県）**




※「毎日、最低1食は、楽しい雰囲気で、家族や友人たちと一緒にゆっくり食べていますか」の問いに「はい」と回答した者の割合。

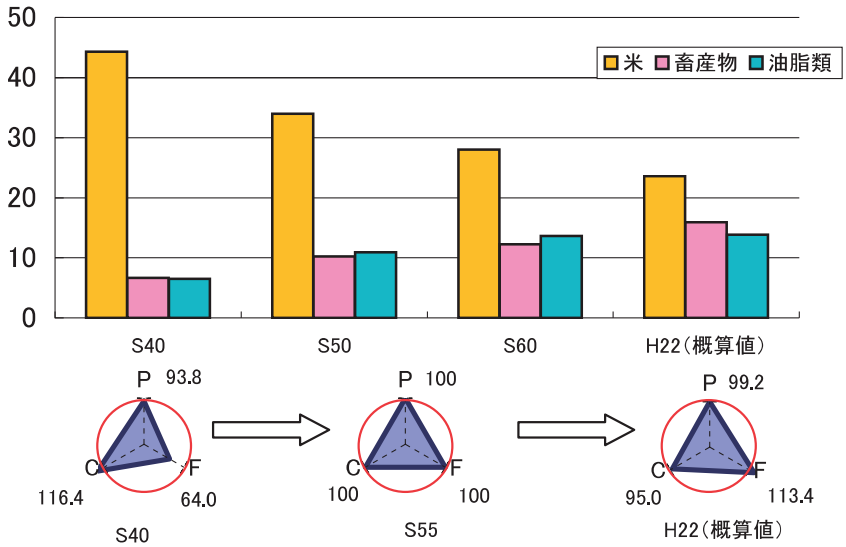
資料：和歌山県「県民健康・栄養調査」

## 栄養バランスの変化

●昭和50年代は、それまで米に偏っていた食生活が改善され、米を中心に、野菜、水産物、畜産物など多様な副食から構成された「日本型食生活」により、栄養バランスに優れた食生活が実現されていました。

●近年は、当時の理想的な「PFC（たんぱく質、脂質、炭水化物）バランス」が崩れ、米などの炭水化物の摂取が不足している一方、畜産物、油脂類の摂取量が増え、脂質の摂取過剰が続いています。

**種類別供給熱量割合とPFC熱量比率の推移（全国）**



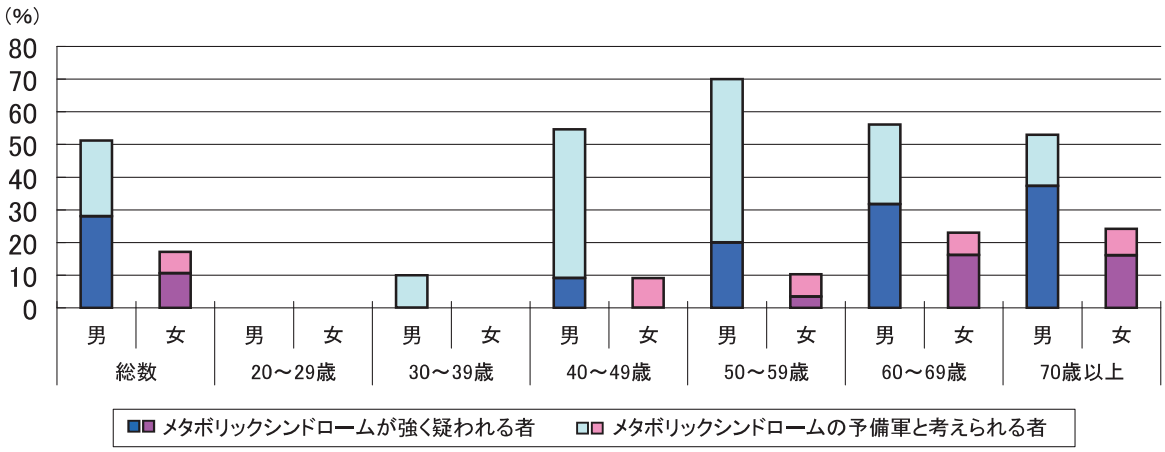

※PはProtein（たんぱく質）、FはFat（脂質）、CはCarbohydrate（炭水化物）。
数値は、昭和55年度のPFC熱量比率（P:13.0%、F:25.5%、C:61.5%）を100とした時の指数。

資料：農林水産省「食料需給表」

## メタボリックシンドロームの状況

●メタボリックシンドロームが強く疑われる者及び予備群と考えられる者の割合は、男女とも40歳以上で高くなっており、40歳以上の男性は5割以上の者が、60歳以上の女性は２割以上の者がメタボリックシンドロームが強く疑われる者又は予備群と考えられる者に該当しています。

### メタボリックシンドロームの状況（和歌山県）




※メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）は、腹囲と３つの項目の該当数（該当するとは、項目ごとに「基準」を満たしている場合、または「服薬」がある場合）より判定します。

・メタボリックシンドロームが強く疑われる者：腹囲の基準を満たし、3つの項目のうち2つ以上の項目に該当

・メタボリックシンドロームの予備群と考えられる者：腹囲の基準を満たし、3つの項目のうち1つの項目に該当

| | |
|---|---|
| 腹　囲 | 腹囲（ウエスト周囲径）　男性：85cm以上　女性90cm以上 |

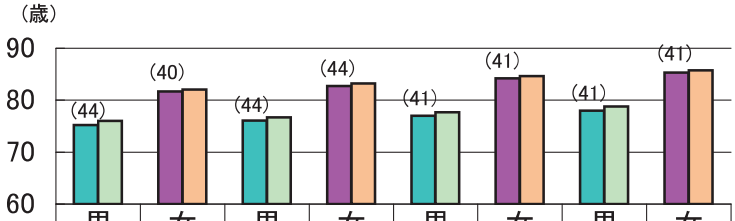
| 項　目 | 血中脂質 | 血圧 | 血糖 |
|---|---|---|---|
| 基　準 | HDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ値 40mg/dl未満 | 収縮期血圧値 130mmHg以上<br>拡張期血圧値　85mmHg以上 | ﾍﾓｸﾞﾛﾋﾞﾝA1c値 5.5%以上 |
| 服　薬 | ｺﾚｽﾃﾛｰﾙを下げる薬服用<br>中性脂肪を下げる薬服用 | 血圧を下げる薬服用 | 血糖を下げる薬服用<br>インスリン注射使用 |

資料：和歌山県「平成23年県民健康･栄養調査」

## 平均寿命

●和歌山県の平均寿命は年々延びていますが、男女とも全国平均を下回っています。

**平均寿命の推移（和歌山県・全国）**




| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | H2 | | H7 | | H12 | | H17 | |
| 和歌山県 | 75.23 | 81.7 | 76.07 | 82.71 | 77.01 | 84.23 | 77.97 | 85.34 |
| 全　国 | 76.04 | 82.07 | 76.7 | 83.22 | 77.71 | 84.62 | 78.79 | 85.75 |

※（ ）内は全国順位

資料：厚生労働省「平成17年都道府県別生命表」

## 生活習慣病など疾病の状況

●3大生活習慣病と言われる「がん」「心疾患」「脳血管疾患」が原因で死亡する人が日本人では約6割を占めています。本県は、全国の中でも「がん」「心疾患」による死亡率が高く、特に「がん」では「胃がん」「肺がん」などによる死亡率が高くなっています。

●生活習慣病は、子どもの頃からの生活習慣の積み重ねが発症や病状の進行に深く関与していることから、年齢にかかわらず毎日の生活習慣を改善し、疾病の発症や進行を防ぐことが重要です。

**平成22年年齢調整死亡率**

| | 全死亡 | | 生活習慣病の疾病別死亡率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 全がん | | 心疾患 | | 脳血管疾患 | |
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 全　国 | 544.3 | 274.9 | 182.4 | 92.2 | 74.2 | 39.7 | 49.5 | 26.9 |
| 和歌山県 | 576.9 | 294.5 | 197.2 | 97.2 | 80.7 | 46.2 | 44.7 | 24.2 |
| ﾜｰｽﾄ順位 | 4 | 3 | 7 | 6 | 12 | 6 | 38 | 35 |

| | がんの部位別死亡率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 胃がん | | 肺がん | | 大腸がん | |
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 全　国 | 28.2 | 10.2 | 42.4 | 11.5 | 21.0 | 12.1 |
| 和歌山県 | 32.3 | 13.5 | 49.6 | 12.7 | 20.3 | 13.6 |
| ﾜｰｽﾄ順位 | 5 | 1 | 3 | 5 | 23 | 5 |

※年齢調整死亡率

都道府県等のように年齢構成の著しく異なる人口集団の死亡状況を一度に比較するときは、単一の数値でないと比較が困難です。このような場合、年齢構成の差を取り除いた死亡率（年齢調整死亡率）が用いられます。

年齢調整死亡率 ＝ （各都道府県別の年齢階級別死亡率×全国の年齢階級別人口）の総和 / 全国の総人口×100,000

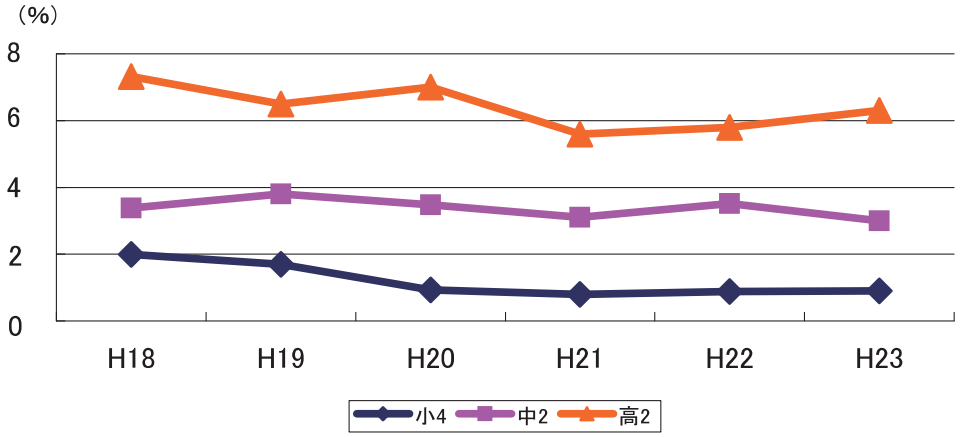
資料：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

## （３）児童生徒の食生活

### 児童生徒の朝食欠食状況

●朝食欠食率は、小学生よりも中学生で、また、中学生よりも高校生で高くなっています。

**小学生、中学生、高校生の朝食欠食率（和歌山県）**

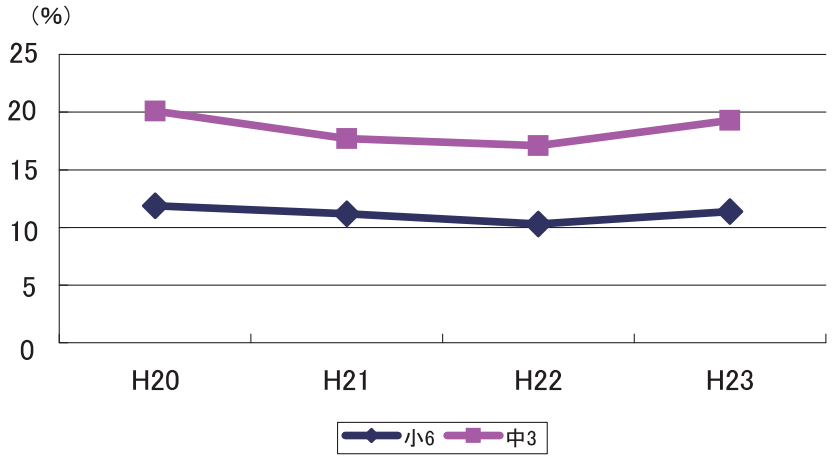



資料：和歌山県「児童生徒の体力・運動能力調査」

### 食事環境（共食）

●家族と夕食を一緒に食べていない児童生徒の割合は、ほぼ横ばいで推移していますが、小学生の約1割、中学生の約2割が普段家族と夕食を食べていない状況にあります。

**小学生、中学生の夕食を共食しない率（和歌山県）**



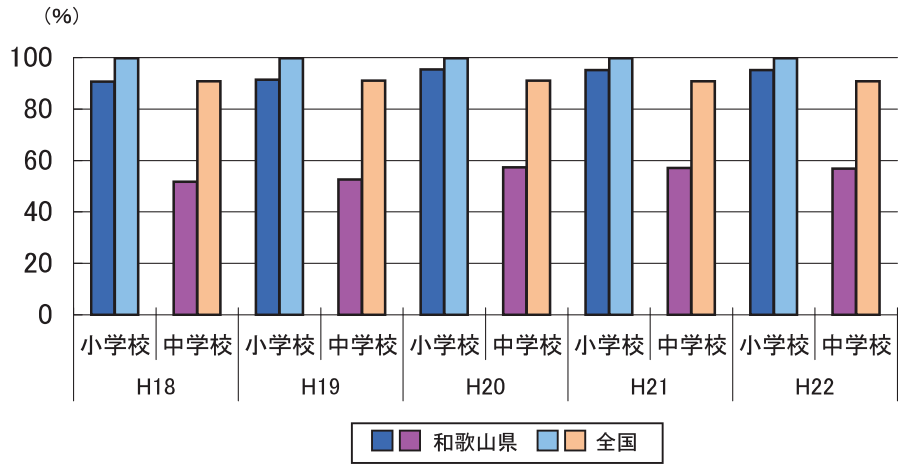

※「家の人と普段（月～金曜日）、夕食を一緒に食べていますか」の問いに「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童生徒の割合。
※H22は抽出調査。

資料：H20～H22 文部科学省「全国学力・学習状況調査」
H23 和歌山県 「全国学力・学習状況調査」

## 学校給食実施状況（学校数）

●給食実施率（学校数の割合）は、小学校、中学校ともに、全国平均に比べて低い状況にあります。

**学校給食実施状況（学校数）（和歌山県・全国）**

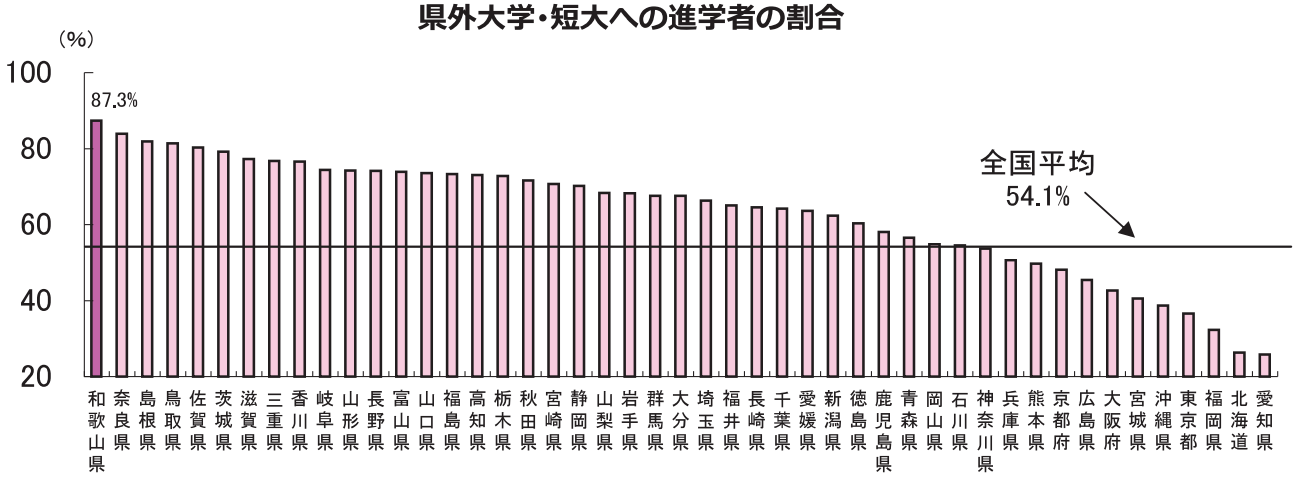



資料：文部科学省「学校給食実施状況等調査」

## 県外大学・短大への進学割合

●本県は、県外の大学･短大への進学率が高く、全国第１位となっています。このため、高等学校を卒業するまでに望ましい食習慣を身に付ける必要があります。

**県外大学・短大への進学者の割合**




資料：文部科学省「平成22年度学校基本調査」

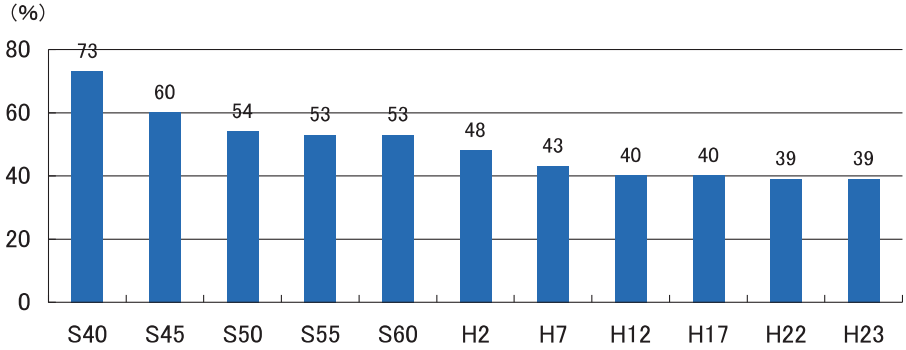
## （４）食料の需給

### 食料自給率

●日本の食料自給率は、昭和40年代から減少傾向にあり、近年は40%程度で推移しています。

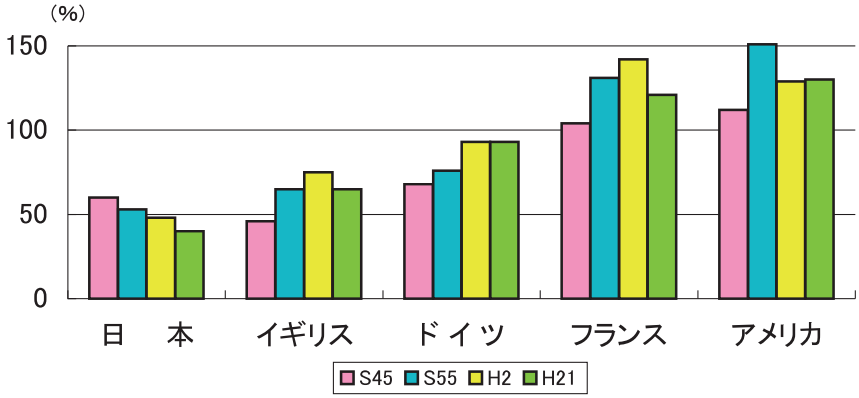
●日本は主要先進国の中では低位な状況にあるため、消費面･生産面の両面において食料自給率向上の取組を強める必要があります。

**日本の食料自給率の推移**




資料：農林水産省「食料需給表」

**主要先進国の食料自給率の推移**



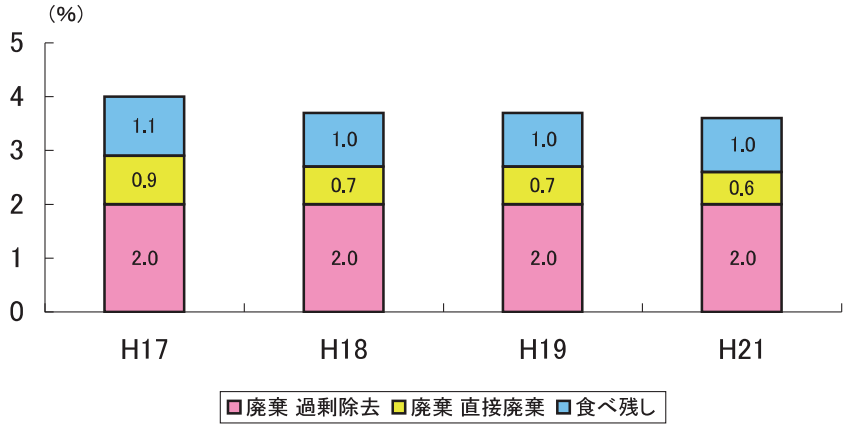

資料：農林水産省試算

## 食べ残し、食品ロス

●食品ロス率は、ほぼ横ばいの状況にあります。

●食品の購入量や調理する量を適正にしたり、保存方法や取り扱い等に配慮することで、廃棄量のさらなる低減が期待できます。

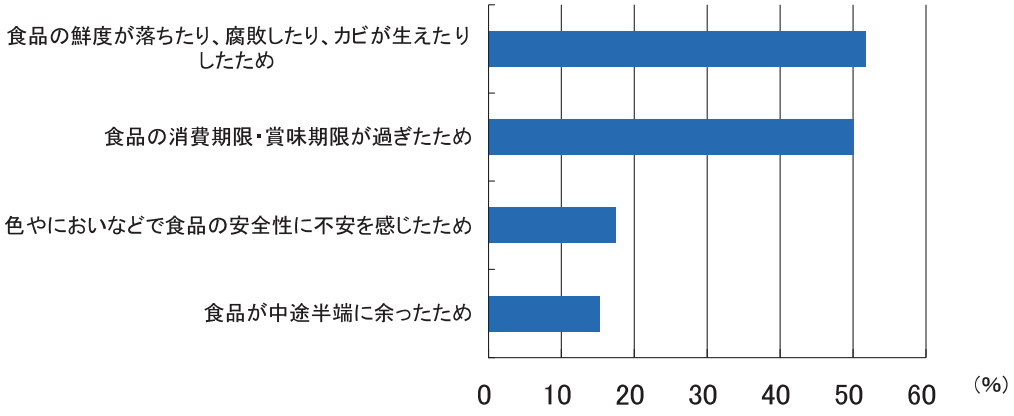
### 食品ロス率の推移（全国）




※過剰除去とは、調理時におけるだいこんの皮の厚むきなど、不可食部分を除去する際に過剰に除去した可食部分。
直接廃棄とは、賞味期限切れ等により料理の食材又はそのまま食べられる食品として使用・提供されずにそのまま廃棄したもの。

資料：農林水産省「食品ロス統計調査（世帯調査）」

### 食品を使用せずに廃棄した理由（複数回答）（全国）




資料：農林水産省「平成21年度食品ロス統計調査（世帯調査）」

## 農産物の生産状況

●本県には、梅、柿、みかんなど、果樹を中心に全国シェアの上位を占める品目が多数あり、果樹全体の産出額は、520億円で全国第2位となっています。

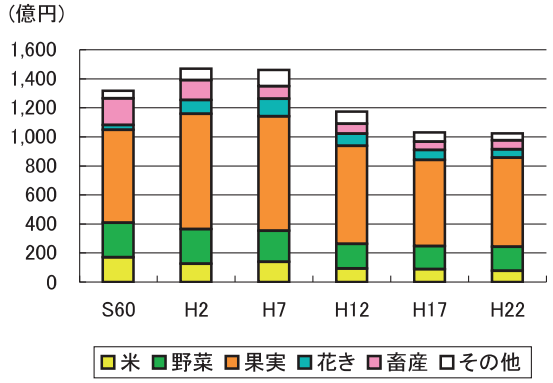
●本県の農業産出額は、近年減少傾向にあります。
また、農業就業人口も減少傾向で、農業就業者の高齢化が進んでいます。

### 農産物の産出額全国シェア

| 平成22年 農作物名 | 産出額 和歌山県（億円） | 産出額 全国（億円） | 全国シェア(%) | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| う　め | 108 | 200 | 54.0 | 和歌山 | 群　馬 | 神奈川 | 福　岡 | 山　梨 |
| か　き | 84 | 426 | 19.7 | 和歌山 | 奈　良 | 福　岡 | 岐　阜 | 新　潟 |
| み　か　ん | 269 | 1,540 | 17.5 | 和歌山 | 静　岡 | 愛　媛 | 熊　本 | 佐　賀 |
| は っ さ く | 36 | 53 | 67.9 | 和歌山 | 広　島 | 愛　媛 | 香　川 | 大　分 |
| す　も　も | 10 | 72 | 13.9 | 山　梨 | 和歌山 | 長　野 | 山　形 | 福　岡 |
| い ち じ く | 7 | 68 | 10.3 | 愛　知 | 和歌山 | 福　岡 | 兵　庫 | 奈　良 |
| え ん ど う | 28 | 203 | 13.8 | 鹿児島 | 和歌山 | 愛　知 | 北海道 | 福　島 |
| も　　も | 46 | 492 | 9.3 | 山　梨 | 福　島 | 和歌山 | 長　野 | 岡　山 |
| キウイフルーツ | 11 | 88 | 12.5 | 愛　媛 | 福　岡 | 和歌山 | 神奈川 | 静　岡 |
| し し と う | 4 | 64 | 6.3 | 高　知 | 千　葉 | 和歌山 | 徳　島 | 宮　崎 |

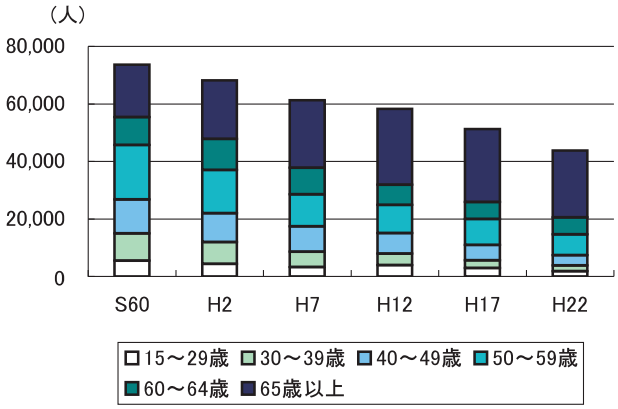
資料：農林水産省「平成22年生産農業所得統計」

### 農業産出額の推移（和歌山県）




資料：農林水産省「生産農業所得統計」

### 農業就業人口（販売農家）の推移（和歌山県）




資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

## 水産物の生産状況

●南北に長いリアス式海岸線を有する本県では、沿岸･沖合漁業を中心に、たちうお、いせえびをはじめ、多種多様な魚介類が漁獲され、特に、生鮮まぐろについては日本有数の水揚量を誇っています。
また、古式捕鯨発祥の地として知られ、鯨類の捕獲も行われており、豊かな清流に恵まれた各河川の流域では、あゆ等の養殖が行われています。

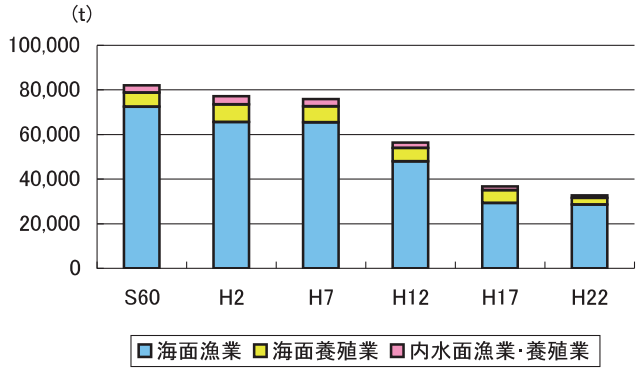
●本県の漁獲量は、近年減少傾向にあります。
また、漁業就業者数も減少傾向で、そのうちの半数以上を60歳以上の男性が占め、高齢化が進んでいます。

### 魚介類の漁獲量全国シェア

| 平成22年 区分 | 漁獲量 和歌山県（t） | 漁獲量 全国（t） | 全国シェア（%） | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 養殖あゆ | 1,131 | 5,676 | 20 | 和歌山 | 愛知 | 岐阜 | 滋賀 | 徳島 | 宮崎 | 栃木 |
| 海産ほ乳類 | 174 | 932 | 18.7 | 岩手 | 和歌山 | 北海道 | 長崎 | 石川 | 富山 | 鹿児島 |
| たちうお | 1,068 | 10,081 | 10.6 | 愛媛 | 大分 | 和歌山 | 広島 | 兵庫 | 徳島 | 長崎 |
| いせえび | 171 | 1,193 | 14.3 | 千葉 | 三重 | 和歌山 | 静岡 | 長崎 | 鹿児島 | 宮崎 |
| むろあじ類 | 2,351 | 25,065 | 9.4 | 長崎 | 鹿児島 | 三重 | 和歌山 | 宮崎 | 高知 | 静岡 |
| 養殖まだい | 1,827 | 67,607 | 2.7 | 愛媛 | 熊本 | 三重 | 高知 | 長崎 | 和歌山 | 香川 |
| いさき | 216 | 3,826 | 5.6 | 長崎 | 山口 | 福岡 | 神奈川 | 島根 | 三重 | 和歌山 |

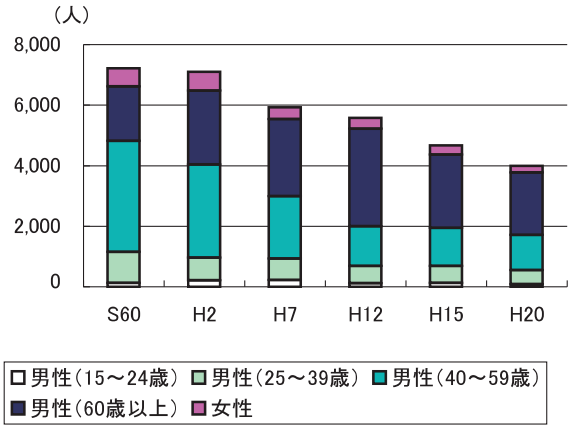
資料：農林水産省「平成22年漁業・養殖業生産統計」

### 漁業･養殖業生産量の推移（和歌山県）




資料：農林水産省「漁業･養殖業生産統計」

### 漁業就業者数の推移（和歌山県）




資料：農林水産省「2008年漁業センサス」

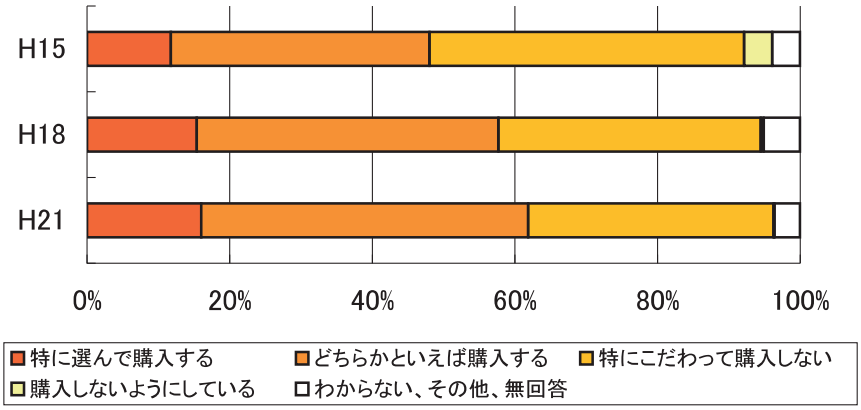
## 地産地消の意識、果物・野菜の摂取状況

●県内産の食品を意識して購入している人の割合は年々増加しています。
このことから、消費者の「地産地消」に対する関心が高まっていることがうかがえます。

●農林水産業が盛んな本県での果物摂取量は、全国平均よりも高い状況にありますが、成人平均摂取量は、127.5ｇと、国･県が目標としている「200ｇ」を下回っています。
特に20歳代～40歳代の摂取量が低くなっています。

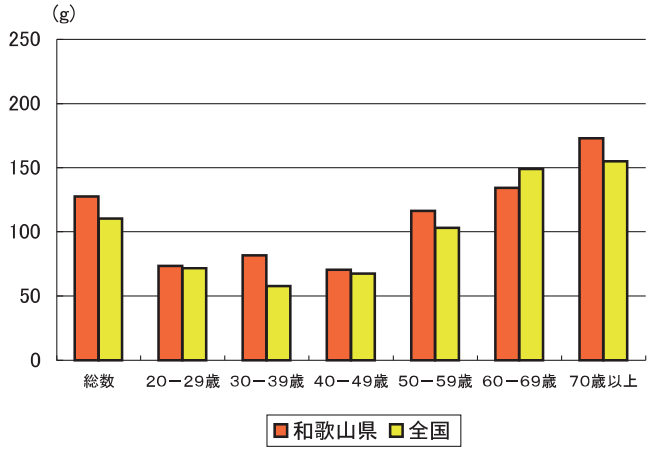
●本県の野菜摂取量は、全国平均とほぼ同じ状況にありますが、成人平均摂取量は、280.2ｇと、国･県が目標としている「350ｇ以上」を下回っています。
特に、20歳代・30歳代の摂取量が低くなっています。

### 県産食品購入に対する意識の推移（和歌山県）

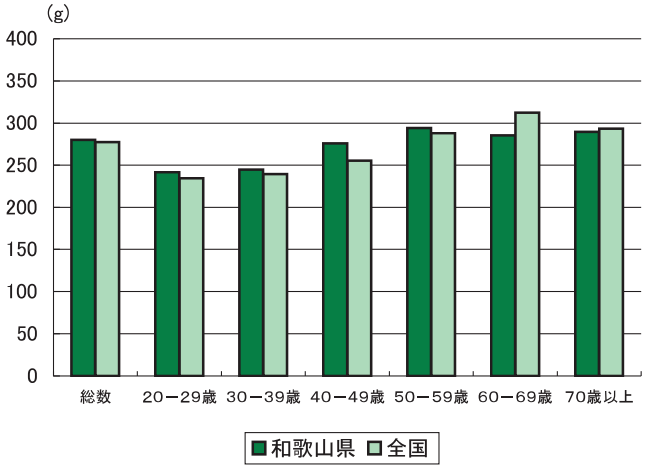



資料：和歌山県「食の安全･安心に係る県民アンケート調査」

### 年代別果物類摂取量の状況（和歌山県・全国）




### 年代別野菜類摂取量の状況（和歌山県・全国）



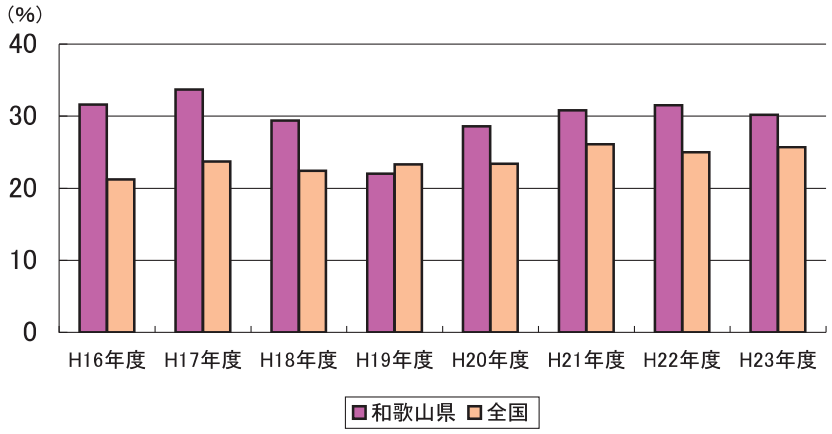

資料：厚生労働省「平成23年国民健康･栄養調査」和歌山県「平成23年県民健康・栄養調査」

## 学校給食における地場産物の活用状況

●本県の学校給食における地場産物の活用状況は、全国平均よりも高い傾向にありますが、農林水産業が盛んな本県においては、より一層の活用率の向上が望まれます。

●学校等と生産者を結ぶコーディネーターの育成など、地場産物の活用が進む体制を整える必要があります。

**学校給食における地場産物活用の推移（和歌山県・全国）**




※調査期間における学校給食の献立に使用した食品のうち、当該都道府県で生産、収穫、水揚された食材の使用率。

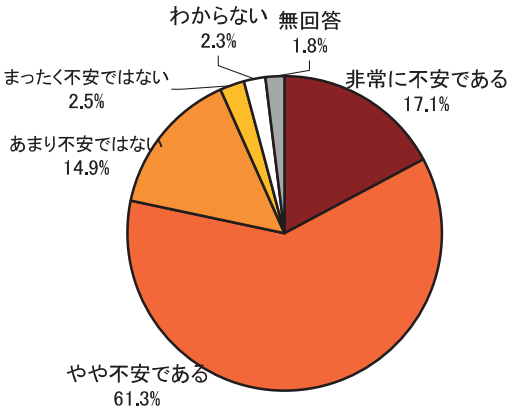
資料：文部科学省・和歌山県「学校給食における地場産物の活用状況調査」

## （5）食の安全・安心

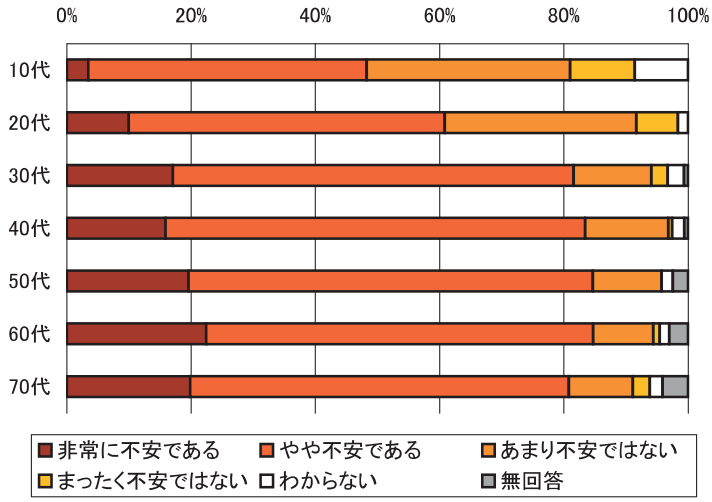
### 食の安全・安心に関する意識

●本県の消費者の約8割が食品に対して何らかの不安を感じると回答しています。年代別にみると、30代から不安を感じる人の割合が高くなり、50代までは年代が上がるごとにその割合は増加しています。

**食品の安全性に対する不安感（和歌山県）**




**年代別の不安感（和歌山県）**

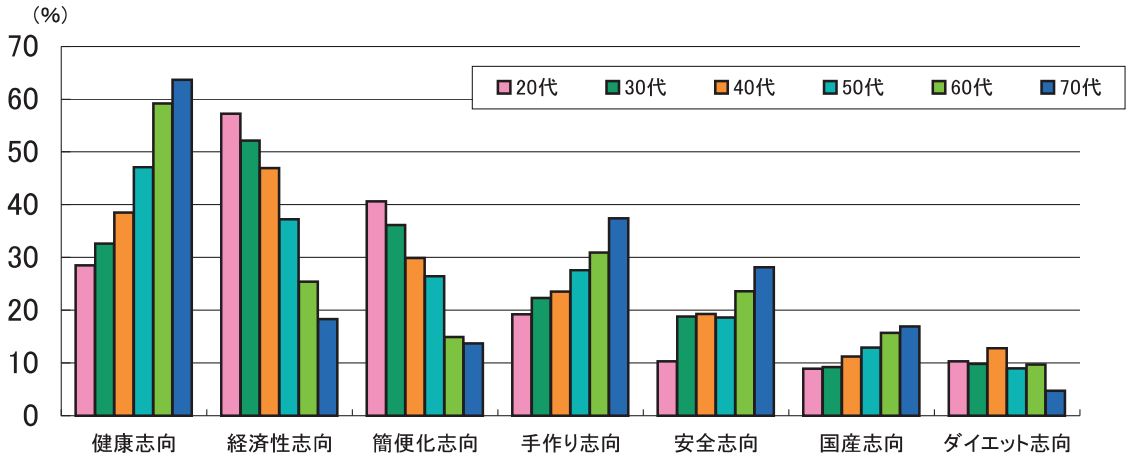



資料：和歌山県「平成21年度食の安全・安心に係る県民アンケート調査」

### 食に対する志向

●年齢が高くなるほど健康面や安全面を重視する傾向が見られます。
また、若い世代では経済性や簡便性を求める傾向が強くなっています。

**年代別食に対する志向（全国）**




資料：日本政策金融公庫「日本公庫・平成24年度上半期消費者動向調査」